

キイトラッキョウ *Allium kiiense* (Murata) Hir.Takah. et M.Hotta

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 3、総点 13。全国的に減少傾向の著しい岩崖地性の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。

【形態】

多年生草本。地下に狭長楕円形で長さ 20～25mm の鱗茎がある。鱗茎の外皮は淡褐色で、繊維に分解しない。葉は束生し、長さ 10～20cm、細い円柱形で直径 1mm 程度である。花期は 11 月、花茎は高さ 8～20cm、花茎に葉はつかず、先端に 5～20 個の花を散形につける。花被片は 6 個、紅紫色、卵形、長さ 5～6mm、先端は鈍頭である。雄ずいは 6 個で、花被片よりはるかに長い。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄 (小林 39930, 1992-10-10)、7 設楽東部 (榊原利修 1458, 1992-10-26)、8 鳳来北東部 (加藤等次 2256, 1992-10-17)、9 鳳来南部 (小林 62722, 1997-10-21)。尾：45 犬山 (芹沢 88237, 88238-白花, 2012-11-17)。西三河では現在のところ確認されていない。

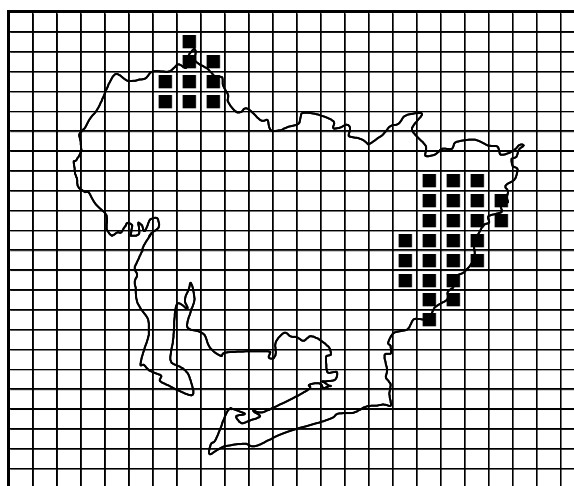
【国内の分布】

本州 (愛知県、岐阜県、和歌山県、山口県) に生育する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の岩崖地や、河岸の岩場に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

東三河では、点在するが個体数は少ない。犬山 (木曾川河川敷) では、岐阜県側に比べれば少ないが、それでもかなりの数が生育している。園芸目的の採取により減少している。

【保全上の留意点】

犬山については、観光開発等により河川敷の岩場を破壊しないよう、特に注意が必要である。東三河の生育地については当面開発の可能性は低く、園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

よく似たイトラッキョウ *A. virgunculae* F.Maek. et Kitam. は花がやや大きく、雄ずいがやや短いもので、長崎県平戸島に分布している。

【関連文献】

平草本 I p.36, 平新版 1 p.241, 環境省 p.547, SOS 旧版 p.92, SOS 新版 p.51,53.